**知っておきたい**

**御葬儀のマナー**

皆様は、ご葬儀に参列された際に、ご遺族やご親族の方々に、どのようにお声がけするか、悩まれたことはございませんでしょうか？お悔やみの言葉と一口に申しましても、色んなお悔やみの言葉がございます。基本的には弔いのお気持ちがあれば、その気持ちを汲んで下さる事とは思うのですが、マナー作法とすれば、良かれと思って言ってしまったその一言が、故人やご遺族に対して、失礼となる言葉もございます。親しい間柄でしたら大きな問題にならないとは思うのですが、最悪その方との関係が悪化してしまう可能性もゼロではありません。できれば心のままに、きちんとしたお悔やみの言葉をお伝えしたいものですよね。そこで今月号では、知っておきたい、お悔やみの言葉の意味と、正しい言葉の使い方などについてお話させて頂こうと思います。

●**【お悔やみの言葉】**

お悔やみの言葉というのは、故人を悼（いた）み、参列者からご遺族にかける思いやりの言葉のことです。一般的には、「お悔やみ申し上げます。」とか、「ご愁傷様です。」と言った言葉が、お悔やみの言葉の代名詞かと思います。ただ他にも、ご遺族や故人との間柄などによって、様々なお悔やみの言葉がございます。

例えば、「ご冥福をお祈りします。」・「哀悼の意を表します。」・「残念でなりません。」

といった言葉になります。こうしたお悔やみの言葉は、お通夜や、お葬式に参列した際に、お伝えるのが一般的です。

通夜葬儀の場面というのは、ご遺族ご親族をはじめ、ご参列の皆さまのお気持ちは傷心なさっておられて、そのお気持ちを考えれば、とってもデリケートな場だからこそ、故人やご遺族に失礼の無きよう、十分に注意しなければなりません。参列者のご挨拶として、ご遺族ご親族に、お悔やみの言葉をお伝えするなら、なるべく平凡な表現を選んで、短くご挨拶を済ませるのが宜しいかと思います。余計な気を回し過ぎると、かえって差支えが生じる可能性もございますので、その場では言葉少なにご挨拶を交わし、心に寄り添ってあげる意識を傾けられると宜しいかと思います。

それではここからは、代名詞的な色々なお悔やみの言葉をご紹介しながら、その言葉の意味と、お悔やみの言葉の正しい使い方、そしてマナーなどについて解説させて頂きます。

●**【お悔やみの言葉の意味と**

**正しい使い方５選】**

**１つ目･･･「お悔やみ申し上げます」**

この言葉の意味合いは、故人の死を悲しみ、弔いの言葉をお伝えします。という思いが込められたお悔やみ言葉という事になります。「お悔やみ」というのは、故人の死を弔う気持ちを表現した言葉になります。

この言葉の使い方なのですが、口頭でも、文章でのお悔やみの言葉としても、どちらも正しいお悔やみの言葉となります。ただし、この言葉を使えるタイミングは基本的に、お通夜や、ご葬儀などの、故人がお亡くなりになられた直後のみという事を覚えておきましょうね。

お通夜・お葬式で、ご遺族に口頭で挨拶する時に、「この度は心よりお悔やみ申し上げます」と言うのが一般的です。その際、「ご愁傷様です」というお言葉も添えて「この度はご愁傷様です。心よりお悔やみ申し上げます」と、お伝え頂いても尚丁寧で宜しいと思います。また弔電などの文章でお悔やみの言葉をお届けさせて頂く場合は、「ご逝去の報に接し、謹んでお悔やみ申し上げます」ですとか、「突然の悲報に接し、心からお悔やみ申し上げます」などの言い回しが一般的によく使われるお悔やみの言葉になります。

こういった冠婚葬祭の儀礼の場合、地域性やその土地に伝わる風習や伝統というものもございますので、あくまで一般的にはというイメージで覚えておいて頂きたいのですが、「お悔やみ申し上げます」というお悔やみの言葉は、お通夜・ご葬儀など、故人がお亡くなりになられた直後にお伝えする言葉となります。間違えて四十九日の納骨法要の際や、一周忌、三回忌などの年忌法要でのお悔やみの言葉としては相応しくありませんので、注意してお使いになる様にいたしましょうね。

**２つ目･･･「ご愁傷様です」**

「ご愁傷様です」というお悔やみ言葉の意味合いとしては、「心の傷を憂い、御遺族ご親族みなさまの事を、気の毒に思います」といった思いが込められたお悔やみ言葉となります。

「愁傷」の「愁」というのは憂いを表しておりまして、「傷」は心の痛みを指します。

ご遺族への同情や、慰めの気持ちを含んだこの「ご愁傷様です」という言葉は、お通夜やご葬儀の際に使われるお悔やみ言葉です。

ちなみに、「ご愁傷様です」というのは、敬語表現になりますので、会社の上司や取引先のお相手だとか、目上の人といった、仕事関係でお付き合いのあるお相手にお使いになるのが宜しいかと思います。

「お悔やみ申し上げます」とは違い、「ご愁傷様です」というのは、お通夜やご葬儀でなくてもお使いになって問題ありません。　　　　　例えば、ご命日から時間が経ってしまっていたとしても、訃報を受け取ったタイミングだったり、お身内に不幸があったという事が耳に入った時に、「ご愁傷様です」とお伝え頂いても宜しいですよ。

ただし「ご愁傷様です」というのは、口頭でのみお伝えできるお悔やみの言葉ですので、弔電などの文面で使わないようにお気を付けくださいませね。

お通夜・お葬式に参列なさったり、弔問に訪れたりした際に、ご遺族に対して、「この度はご愁傷様です」とか、「この度はご愁傷様でございます」と言いながら一礼をして、あなたのお気持ちをお伝えいたしましょうね。

**３つ目･･･「ご冥福をお祈りします」**

「冥福」と言いますのは、死後の安寧と幸福のことを意味しておりますので、「ご冥福をお祈りします」と言うのは、「故人の、死後の幸福を祈っております」という意味合いになります。

「ご冥福をお祈りします」というお悔やみ言葉は、ご遺族ではなくて、お亡くなりになられた故人に対して使う表現です。ですので口頭では使いません。弔電の文面として書くのが一般的です。

「ご冥福を心よりお祈り申し上げます」とか、「謹んでご冥福をお祈りいたします」などといった言い回しになさると、より丁寧な印象になります。

なお、「ご冥福をお祈りいたします」というお悔やみ言葉は、仏式のみで使われる言葉となりますので、故人の宗教が、新式とか、キリスト教式では使わない言葉となりますので、お気を付け頂きたいと思います。　　仏式と言いましても、宗派によって使わない宗派が御座います。それが浄土真宗様ですので、御遺族の宗旨宗派をご確認の上、お言葉を伝えるようになさって下さいね。

**４つ目･･･「哀悼の意を表します」**

「哀悼」と言いますのは、故人の死を悲しみ悼むという意味合いになります。ですので一般的に使われる「哀悼の意を表します」というのは、「故人の死を思うと、悲しくて心が痛みます」といった表現になります。

この言葉は口頭では使いません。弔電などの文章のみで、お使いいただくお悔やみの言葉となりますので、注意なさって下さいね。

使用例とすれば、「謹んで哀悼の意を表します」とか、「故人様のご逝去の報に接し、謹んで哀悼の意を表します」など、「謹んで」を文頭につけると弔意がより強調されると思います。

**５つ目･･･「残念でなりません」**

「残念でなりません」というのは文字通り、「故人の死が非常に悔しくて、心残りです」という意味合いですね。口頭でのご挨拶や、弔電での文面にもお使い頂けるお悔やみの言葉となります。

「突然の訃報を受け、誠に残念でなりません。心よりお悔やみ申し上げます」など、他のお悔やみの言葉とあわせて使うと宜しいかと思います。お通夜ご葬儀に参列なさったり、弔電でお悔やみの気持ちを伝えたりする時などに、お使い頂ければと思います。

ということで、以上五つの代名詞的お悔やみの言葉について解説させて頂きました。

それでは続いてお悔やみの言葉でＮＧとされるような言葉を四つ挙げさせて頂きます。

●**【お悔やみでタブーとされる言葉**

**３選**】

**１つ目･･･忌み言葉**

斎場でお知り合いの方にお目にかかったとしても、「こんにちは」とか「お元気でしたか？」なんてね、何気ない普段と変わらない言葉遣いでご挨拶しないように気をつけましょうね。通夜葬儀の場面では、基本的にお悔やみの言葉を述べるのがマナーと言えます。ご親族の気持ちに思いを致し、言葉少なに故人へのご冥福を祈る言葉をお伝えし一礼しましょう。この時に忌み言葉と言われる言葉を重ねたり、繰り返しのイメージを連想させるような言葉などに気をつけましょう。例えば**忌み言葉**と言いますのは、重ねる・再三・くれぐれも・また・度々・返す返す・重々とかね、ますます・次々・追って・再び・続く・なお、などの言葉を「忌み言葉」とか「重ね言葉」と申します。

**２つ目･･･死因を尋ねる言葉**

死因や故人の年齢によって、お悔やみの言葉を変える場合も多々ございますが、死因がハッキリしない場合、お悔やみの言葉も、かけようがないなんて事もあると思います。だからといって、こちらから御遺族側に死因を尋ねるような真似は厳に慎みましょう。 　　その時の状況に合わせながら、故人やご遺族に対して、嫌悪感や不快な想いをさせる事の無いように、振る舞うのが当然のマナーだと思います。ご遺族側からお話になる場合は、心に寄り添いながら、冷静に耳を傾けるように致しましょうね。

**３つ目･･･励ましの言葉**

「頑張って・元気を出して・泣かないで」などの、安易な励ましの言葉をご遺族にかけるのはいけません。お気持ちは分かるのですが、悲しみを一層深められる可能性もあります。遺されたご遺族に対する思いやり、心づかいが何より大切です。そういう意味では、言葉などは要らないと言っても過言ではありません。ただソッと寄り添って、心を傾けさせて頂くだけで、御遺族ご親族の立場からすれば、正直もうそれだけで十分ですし、そうして頂く事が、ありがたいと思われる事もございます。ですので、励ましの言葉なんて、薄っぺらく感じてしまって、かえって言わない方が良かったなんて、あとで後悔と反省の念にかられる事があるかもしれません。気持ち合ってのことだとは思うのですが、むしろ、傍にソッと寄り添うだけでも宜しい場合が御座います。ケースバイケースでのご対応をお願いします。

以上！三つのタブーをご紹介させて頂きました。

突然の事ですので、どうして良いものかが分からなくなる事もあると思います。良かれと思って言ってしまったそのタブー言葉を使わないように、素直な気持ちを込めて、極力シンプルな言葉を選んで、無難にお伝えすることが、最適な配慮になると言えるのかもしれません。ご葬儀の際は、ご遺族の方に失礼のないお悔やみの言葉をかけられるように、何もない今のうちに、マナーや作法を確認なさって覚えておきましょうね。

合掌　副住職　谷川寛敬

****